

# キリスト教と国家 – 近代中国とキリスト教の関係を中心に

関連キーワード: 近代中国 キリスト教 植民地主義

## 研究内容

わたしはこれまで、キリスト教が中国社会にどのような影響を与えたのか、あるいは中国社会がキリスト教にどのように反応したのかを、19世紀半ば以降の歴史を中心に考えてきました。

中国近代史というと、民衆反乱や軍閥割拠、うち続く内戦というイメージが強く、キリスト教などとはおよそ無縁だったのではないかと思われる方がおられます。しかし、1853年に南京を首都に建国された「太平天国」、軍事技術を中心とした近代化（洋務運動）、政治改革運動（戊戌変法運動）、義和団、そして辛亥革命と、この時代に起きた主要な出来事すべてにキリスト教は深くかかわっており、キリスト教への目くばせなくして、中国の近代化を語ることはできません。この間、中国側は、時には宣教師のもたらす近代知に大きな関心を寄せ、時には暴力を伴う激しい拒絶を示しました。

わたしはとりわけ、暴力を伴う反発がなぜ生まれたのかに関心を持ち、知識人の反キリスト教言説を分析すると同時に、その背景にあるキリスト教と植民地主義との結託、あるいはキリスト教と国家との関係にも目を向けて研究を続けてきました。

キリスト教と国家とのかかわりへの関心は、当然のことながら国家によるキリスト教の統制、信教の自由に対する抑圧の問題への関心につながります。最近では、この信教の自由というテーマを、近代中国に即して歴史的に考察することも私の重要な研究課題となっています。

## 研究者プロフィール

国際学部国際教養学科 教授 渡辺祐子

研究分野: 中国近代キリスト教史 日中キリスト教関係史

所属学会: キリスト教史学会

## 地域・産学官連携の可能性、事業化のイメージ 他

仙台と中国との関係史について、講義等の貢献が可能。

仙台と中国と言えば、魯迅や吉野作造が有名だが、1886年に来仙、東北学院を創設したのち、1899年に中国湖南省岳州に活動の拠点を移したウィリアム・ホーイを取り上げることも意味があろう。

## 研究者への連絡先

[ywata0121@mail.tohoku-gakuin.ac.jp](mailto:ywata0121@mail.tohoku-gakuin.ac.jp)